

厳選！ シヴの大ポカ集

まえがき

わたくしシヴは理系ではない^{*1}が、必要に迫られて T_EX なるものを勉強することになった。

T_EX は、次のような複雑な数式：

$$\left(\int_0^{\infty} \frac{\sin x}{\sqrt{x}} dx \right)^2 = \sum_{k=0}^{\infty} \frac{(2k)!}{2^{2k}(k!)^2} \frac{1}{2k+1} = \prod_{k=1}^{\infty} \frac{4k^2}{4k^2-1} = \frac{\pi}{2}$$

であっても手軽に出力できる組版システムとして有名だが、何も数式以外が扱えないわけではない。

調べてみると、T_EX でプレゼン資料を作るとか、漢文を打ち込むとか、楽譜を作成するというような試みも行われているようである。

そこで、自分も何か変わったものを作ってみようと思い、試みに「将棋盤マクロ」を作成してみた。本書は、そのテストとして作られたに過ぎない。

ゆえに、内容自体は、言っちゃ何だがゴミそのものである。とりあえず、出力できることが確認できれば何でもいいのだ。

ということで、いきなりポカ紹介っていうのもアレなので……

^{*1} — 少なくとも、これを執筆している時点では。

1 将棋盤マクロの概要

形式:\ShogiPut{盤面}{先手持ち駒}{後手持ち駒}
 {強調駒の筋}{強調駒の段}

ただし、盤面は SFEN 表記 *2 に準ずる。たとえば、

```
\ShogiPut{ln2k2n1/1r1sgsgb1/p1ppppp+S1/8p/
  1p7/9/PPPPPP1P/1BG4R1/LNS1KG1NL}
  {歩二}{なし}{2}{3}
```

と入力すると、次の出力を得る *3 :

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
↑	桂	桂		王				桂	桂	一
な		飛		銀	金	銀	金	角		二
し	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	龍	三
□									歩	四
		歩								五
										六
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	七
		角	金					飛		八
	香	桂	銀		王	金		桂	香	九

▲ 歩二

*2 詳細は、www.geocities.jp/shogidokoro/usi.html

*3 \scalebox を用いて適当に拡大してあるが、それ以外の加工は一切していない。

また、▲△▼□といった符号はもちろん、成駒を表す文字：

鎧, 暑, 釜 (!?)

などの入力も容易であり、T_EX ならではの高品質な出力が得られる。体裁を整えてやれば、一般出版物にも勝るとも劣らない品質で、将棋に関する文書を作成することができるだろう。

品質もさることながら、棋書で T_EX を使う最大のメリットは、「構造化されている」ということだろう。例えば、ワープロソフトで同様の図を 100 個作ったとする。その後から、「やっぱり『成銀』は『ナリ銀』と表示したい」と思ったらもう大変な作業量になるだろう。

しかし、T_EX なら、「\ShogiPr の定義」1 つを変えてしまえば、すべての鎧を、一瞬にして^{ナリ}銀に変更できる。もちろん、全にしたいのなら、それでもよい。

もっとも、どれだけ T_EX の出力が高品質であろうと、その文書が表す内容の品質までは保証できない。この後からの内容は、まさしくそれを実証するものとなっている……。

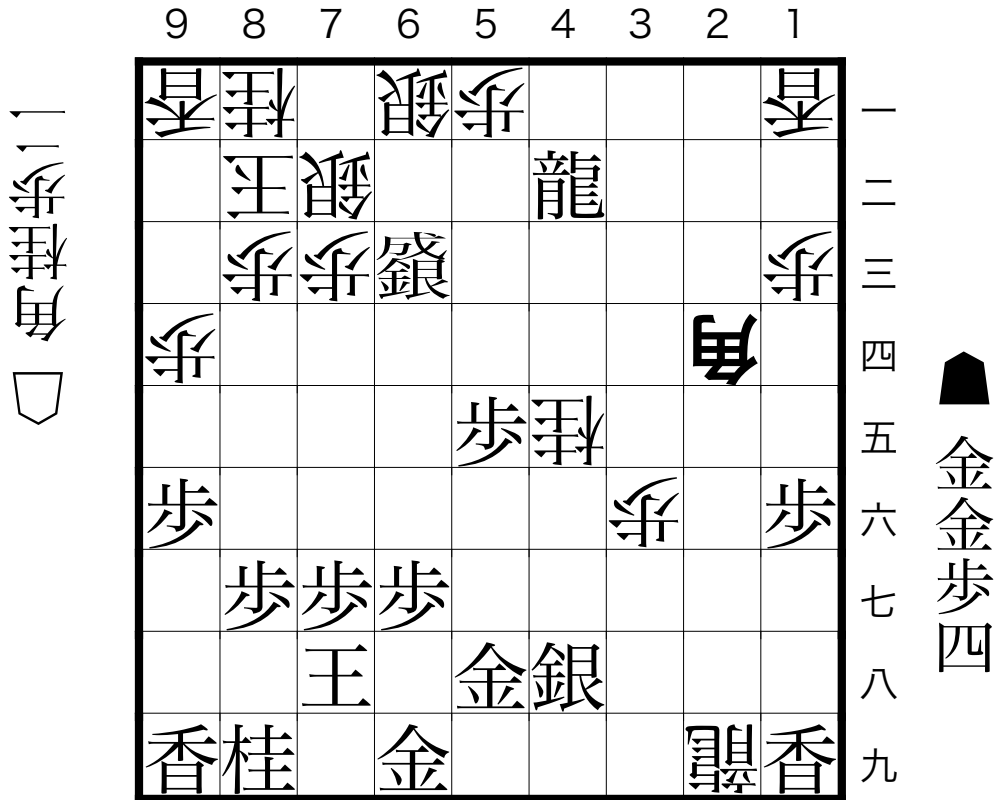
2 厳選！ シヴの大ポカ集

- 全 5 問とも、シヴの実戦譜から局面を掲載している。
- 解答は「最善手」ではなく、「シヴがどんなポカをしたか」である。(∴当たらないのが普通)

第1問

難易度：★★★★☆☆

【問題図は△2四角まで】

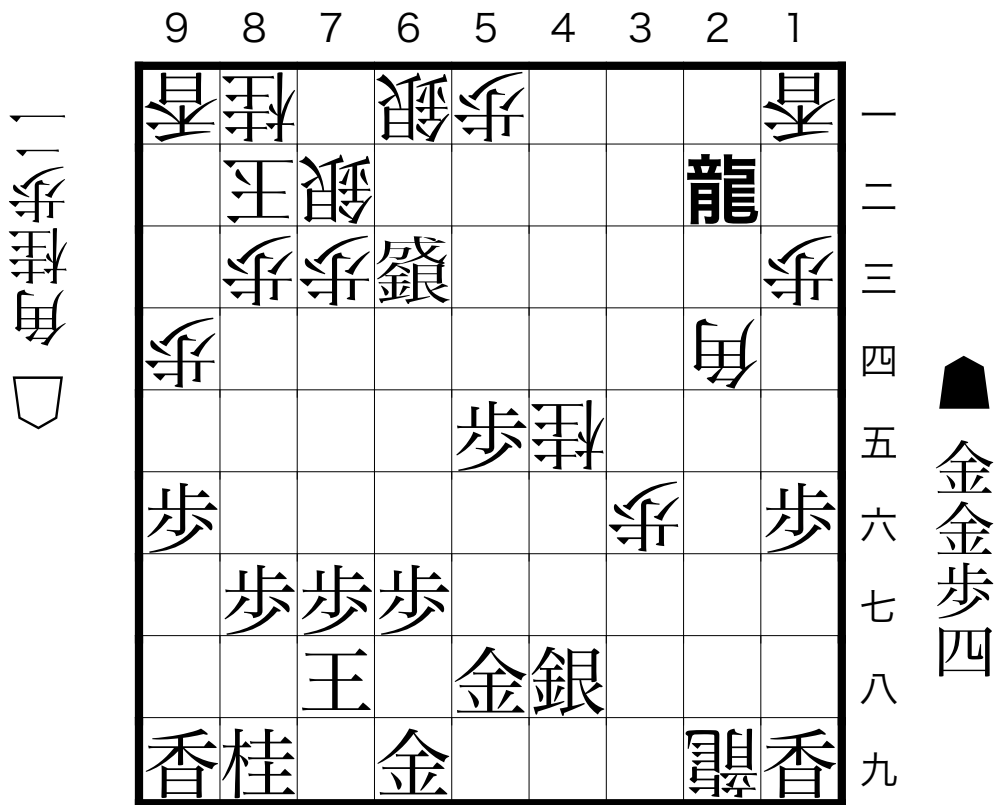


まずは小手調べ。

ここまではうまく指し回して、相手玉にかなり迫っている。
 対する後手は龍取りに角を打ってきたが、ここでどう指すか。

解答：▲ 2 二龍

【解答図は▲ 2 二龍まで】



【参考図は△ 2 二龍まで】



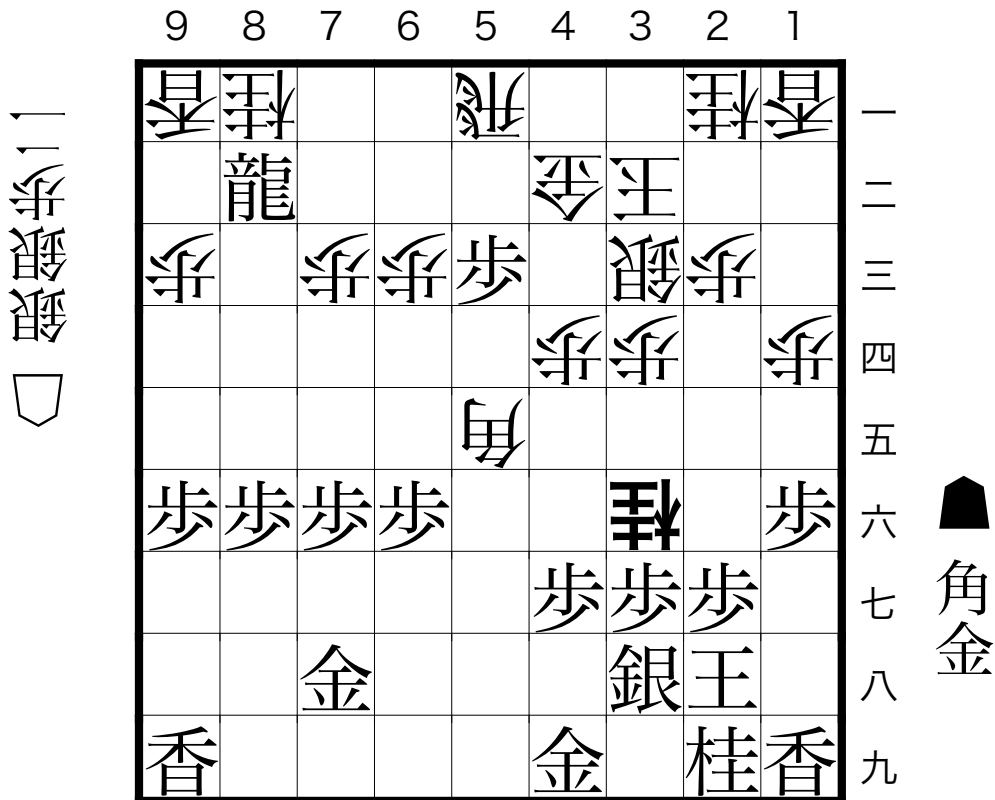
▲ 7 二成銀 △ 同銀 ▲ 7 一銀から詰み筋に入りそうだが、ここは無理せず ▲ 2 二龍。避けつつ 2 九に利きを作り、「角が動けば龍が取れる」という読みだった。

△ 7 九角成 ▲ 同玉 △ 2 二龍で「龍が取れる」のは後手の方だというのは読めなかったらしい。

第2問

難易度：★★☆☆☆

【問題図は△3六桂まで】



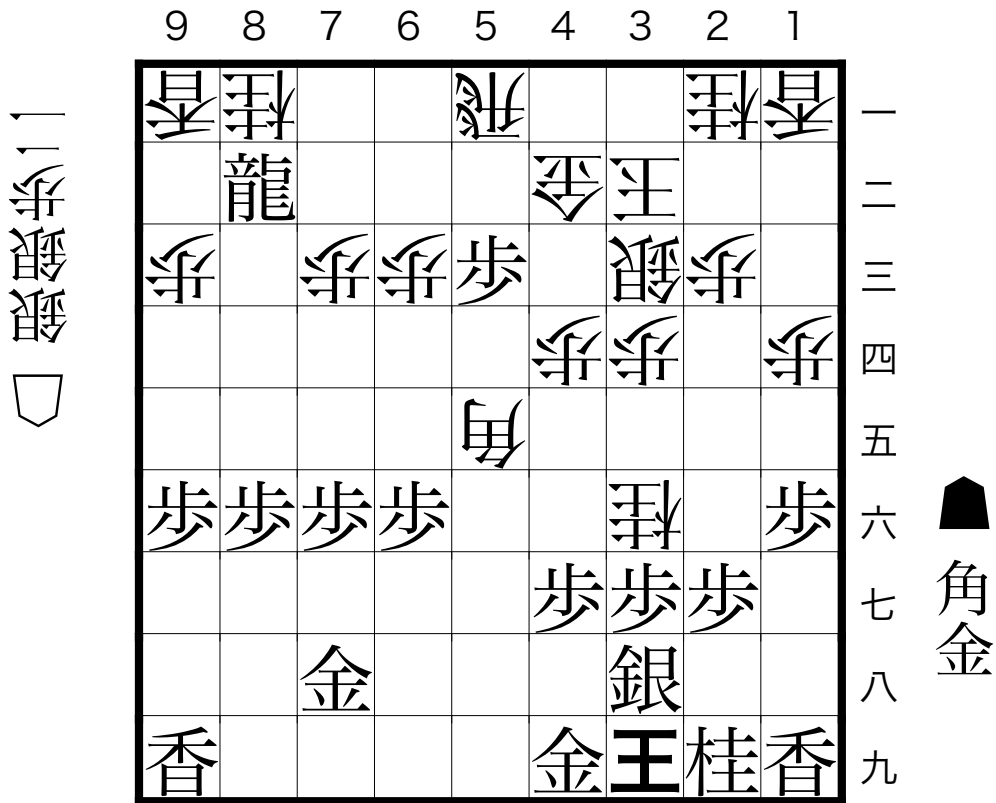
続いて将棋倶楽部24からの出題。

こちらが急戦を仕掛け、なんとか敵陣に駒を進めた。一方、その代償としての駒損が響き、美濃囲いの急所であるコビンを狙われてしまった。

局面の形勢判断は難しいが、ひとまず王手を受ける。

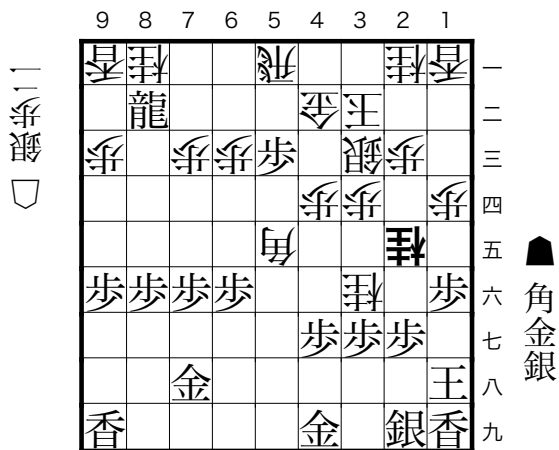
解答：▲ 3九玉

【解答図は▲ 3九玉まで】



受かってない。□ 二八銀までの1手詰である。

【参考図は□ 二五桂まで】



ちなみに最善手は▲ 1八玉。

▲ 1七玉は□ 二八銀の王手があり、以下▲ 1八玉□ 二九銀不成▲ 同銀□ 二五桂が詰めろになるので疑問手。

……▲ 3九玉に比べれば100倍マシだけどな。

第3問

難易度：★★★★☆

【問題図は△5七金まで】



続いては、将棋ウォーズからの出題。

すでに相当辛い局面である。ここから勝つとすれば、時間切れ勝ちを狙うぐらいしかないだろう。

そこで、なるべく長く耐えられるような受けをしておきたいところだが。

解答：▲3二と

【解答図は▲3二とまで】



まさかの「受けない」が正解。△6七桂まで、またもや1手詰である。

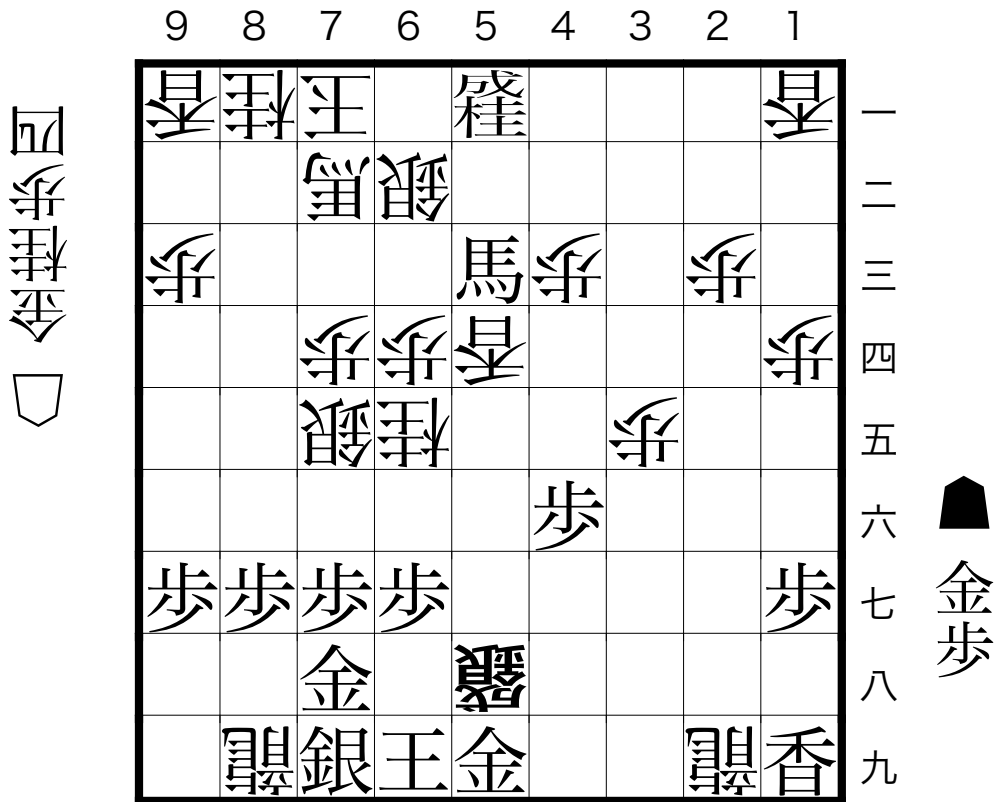
特筆すべきは、「▲3二との1手に16秒かけている」ということだろう。特に時間に追われているわけでもないのに*4、一体何を考えていたのか？

自分で棋譜を漁っておいて何だが、ちょっとゾツとした。

*4 将棋ウォーズは「10分切れ負け」であるが、そのうちの5分を残しての投了となった。

第4問 難易度：★☆☆☆☆

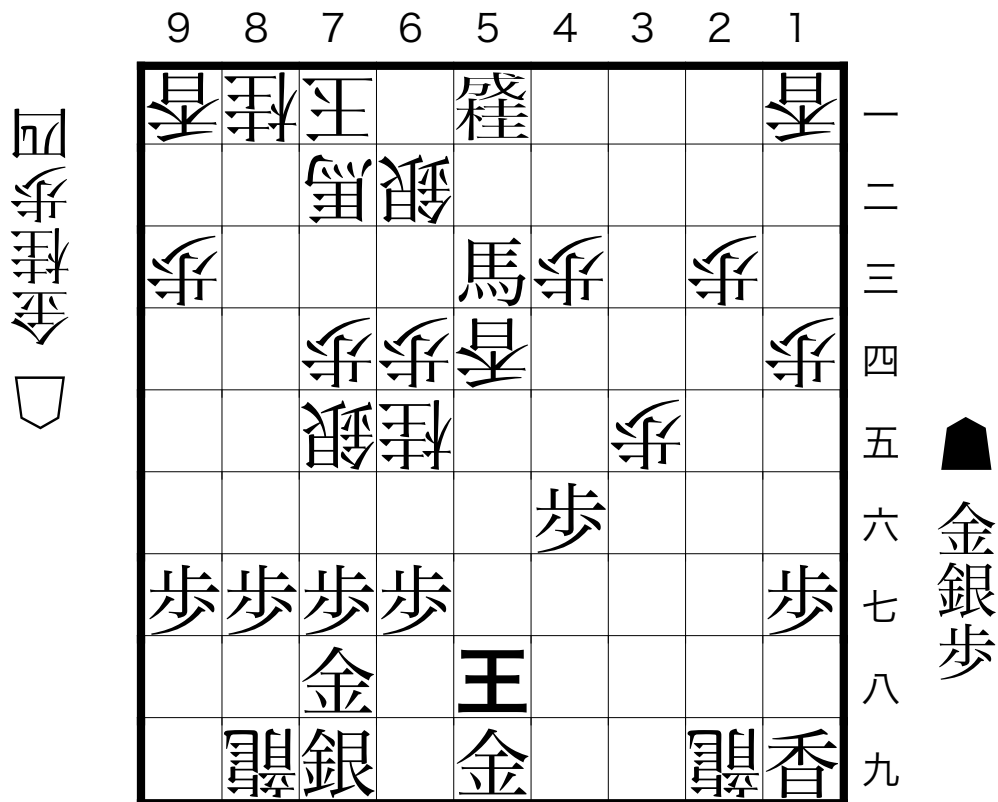
【問題図は△5八銀成まで】



ノーヒント。

解答：▲5八同玉

【問題図は▲5八同玉まで】



△5八同香成まで。この局面で注目すべきは、シヴは決してわざと突撃したのではないということだ。つまりは、5四の香の存在を完全に忘れていたのである。当時は、「▲5八同玉△5七金▲6九玉△5九龍▲同玉△5八金打までか」と思っていた。

そしてチャット欄には、次のような文字が連なるのであった。

シヴ > いや

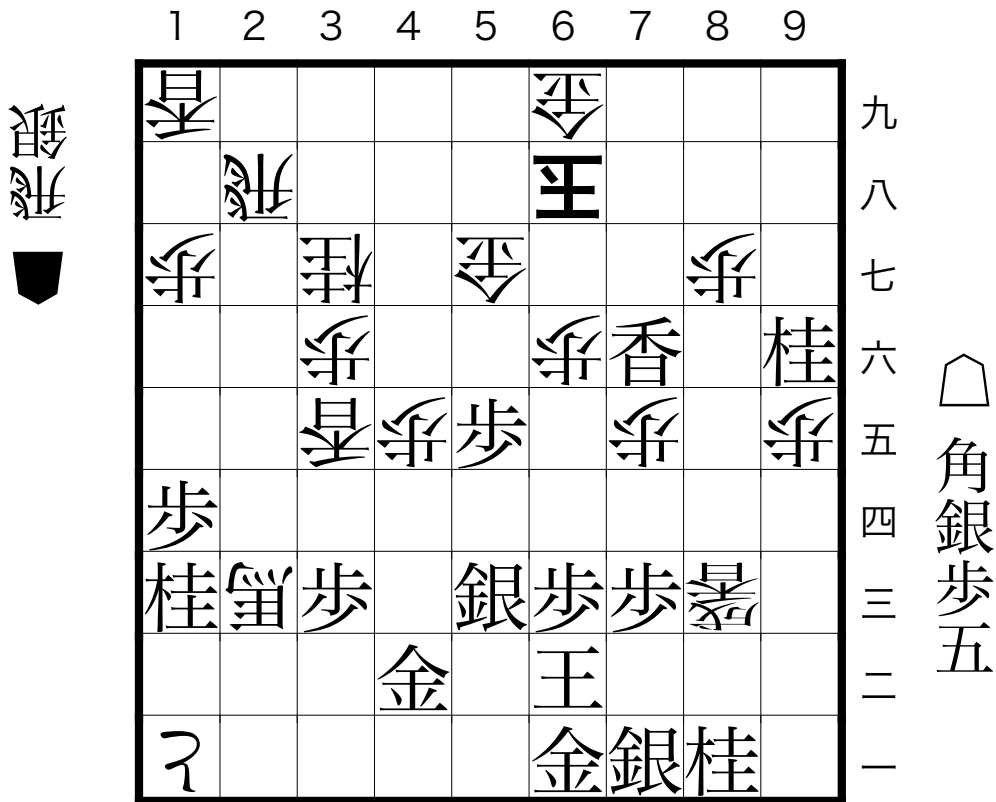
シヴ > わざとじゃないです

シヴ > 本当にただのうっかりなんです

第5問

難易度：★★★★★

【問題図は▲6八玉まで】



最後は、執筆直前に指された最新譜からの出題である。

直前に打った△7六香からして筋悪だが、ここから寄せきれるだろうか。

解答：△8六角

【解答図は△8六角まで】



相手の歩の目の前に角を打つ。嘘のよう手だが、なんとクリッ

クミスの類ではない*5。もちろん▲8六同歩で何も無い。

【投了図は△8二歩まで】



しかし、実戦ではなぜか取られず▲5八玉△7七角成と進み、結果はこちらの勝ち。低級タブには魔物が棲んでいる。

*5 強いて言えば、8七の歩が見えなかった。……としか言いようがない。

3 あとがき

いかがだったでしょうか？

TEX を利用すると、この程度の文書は個人でも簡単に組版できてしまうのである。Word などのワープロソフトとは設計思想が根本的に異なるので単純な比較はできないが、個人的には、「棋書を作るなら Word より断然 TEX だ」と思った。

……もともと棋書を作る機会が全くないのが残念だが。

蛇足：この文書は8割方冗談で作られたものだが、後の2割として、「ポカを集めて公開することで、自らの将棋に対する羞恥心を募らせ、己の向上心を引き出す」という目的も存在する。